

さて、平成十七年度も新年度のスタートです。当院では五十人の新人を迎えました。うち四人の研修医を採用しました。以前も書きましたが、若い医師を迎えることは当院のように新しい病院には向かないのでは、と言う意見もあります。事故が増えるのではと危惧する声も聞かれます。私は全く逆だと考えています。若い医師の教育を通して、教える立場の先輩の医師の成長があり、病院全体のレベルアップが期待でき、新しい病院だからこそこれから十年二十年先を担う人材を自前で作って行かなければならないと考えます。

毎年毎年、新人は入職してきます。「何で毎年、新人教育をしなければならないのか？」確かに素朴な質問です。私も以前、そう感じた時期がありました。では新人教育をいっさい止めてしまうとうなるのか。特に病院はいろんな職種があり、さまざまな訴えを持った患者さんが来院され、受付から患者さんへの対応がスタートします。続いて外来看護師が症状を聞き、各科の医師の診察に回ります。医師は問診、診察をし、色々な検査を指示します。その指示に基づき放射線技師、検査技師が検査をします。つまり病院は縦のつながり、横のつながりが機能してこそ医療ができるのです。職員同士が相手の仕事、気持ちを理解しないと機能しません。その為にはリーダーと呼ばれる人員を中心に教育をさせます。そのリーダーのトップにはもちろん医師が立ちます。医師は診察をし、指示を出し、治療方針をたてなければなりません。その計画通りに進んでいるのかを確認するだけでなく、円滑に進ませるには、やはり職員ひとりひとりに対する教育が為されないとうまくいかないということです。よっていろいろ言いましたが、「教育こそ全てである」という結論に達します。しかも新人は「教えたことしか知らない」。

教育にもいろんなやり方があります。場面を設定して、ロールプレイの形で考え行動させるとか、以前の事例を通して経験、反省させる、多くのミニ知識を問いかける方法等々。またアフター5の充実も、院長として取り組んでいきます。

今年の冬は予想に反して、インフルエンザが大流行し、今だ燻ぶっている感じです。しかしインフルエンザワクチンの接種のおかげで、やはり死亡率は減っています。高齢者の方、糖尿病や血液透析をされているなど合併症をもたれた患者さんはもとより、今回高熱を出して寝込んだ方もぜひ来年度は接種を受けていただきたいと思います。我々先輩も初心を忘れずに努力しましょう。

第22章。

